

○事業所名	放課後デイサービスふくろう		
○保護者評価実施期間	令和7年2月20日		～ 令和7年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年2月20日		～ 令和7年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい特性に応じた本人支援・家族支援	ろう難聴児が多く通所する事業所であることに鑑み、ろう難聴当事者であるスタッフや、ろう難聴児の保護者であるスタッフ、さらには聴覚の専門家である言語聴覚士を常勤職員として配置している。	いわゆるきょうだい児への支援や、通所修了後(高等部卒業後)のキャリア支援が足りていないと感じており、この部分についても充実を図るべく努めていきたいと考えている。
2	学校との連携	事業所管理者が特別支援学校の学校運営協議会委員長に就任しており、その枠組みを活用しながら学校との連携を図っている。	学校幹部職員のみならず、実際の指導を行う教員との連携も強化し、学校と一丸となって一貫した支援に努めていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員への情報共有	今回の職員アンケート結果からも分かるように、自分が担当したことのない業務や、管理者や児発管が行っている業務について全く知らないということが浮き彫りとなった。管理職員から担当者レベルの職員に対し、事業所全体の業務についての情報共有を図らなければならない。	全体会議や定期的な内部研修の場を捉え、事業所全体のシゴトについて共有を行っていく。
2	インクルーシブ	いわゆる障がいの無い子どもとの交流機会が足りていない。その必要性は十分に意識しつつも、当方のみでは解決できないことも多く、なかなか手が付けられない分野であった。実際のアンケートでも職員・保護者ともに評価が低かった。	体験プログラムを委託している団体等との連携を深め、ネットワークの構築に努めていく中で、交流に理解のある団体と繋がることを目標にまずは取り組んでいきたい。